歌川広重「相州江ノ嶋辨才天開帳参詣群集之図」
大判3枚続　嘉永4年（1851）頃　個人蔵

広報展示室 Koho Gallery
第5回

企画展　江戸の大衆文化と行楽展

歌川広重「相州江ノ嶋辨才天開帳参詣群集之図」

大人の女性から小柄な娘さんまで幅広い年齢層の女性たちが、おそろいの日傘を差しおそろいの浴衣に身を包んでそぞろ歩いています。よく見ると、浴衣の柄や傘の紋によって彼女たちは４つのグループに分かれるようです。さらに、当時の人であれば、傘の紋から彼女たちがどんな団体だったかを読み取ったでしょう。――左から、浄瑠璃一流派の常磐津節（角木瓜紋）、同じく清元節（三柏紋）、長唄の杵屋（三本杵紋）、浄瑠璃一流派の富本節（桜紋）、つまり彼女たちは全て音曲関係の社中（流派のグループ）なのです。

この集団の目指す所は、相模国（現神奈川県）の江の島です。江の島に祀られる弁財天は、芸事や金運、音楽などの神様として信仰を集めており、本作品に描かれた江戸で諸芸を習うグループの女性たちも、芸の上達を祈願する目的で参詣に来たのでしょう。しかしながら、彼女たちは純粋な信仰心だけで江の島を目指したのでしょうか。おそらくは、参詣を理由に仲間たちと一緒にちょっとした遠足を楽しむ、現代の感覚で言えば研修旅行や慰労会のような催しだったのではないでしょうか。

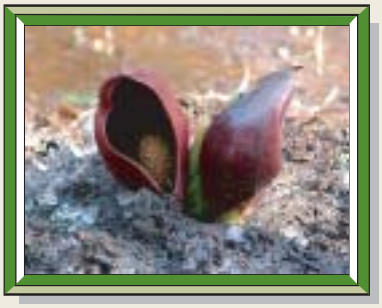
それにしても、様々な社中がこうも一度に江の島に押し寄せるのは、この時に江の島で何か特別な行事でもない限りちょっと異様な光景です。江戸時代中期以降、江の島ではほぼ６年ごとに本尊の開帳を行っていましたが、本図が制作されたと思われる嘉永４年（1851）にも、２月28日から百日間に限り江の島岩屋（本宮）の弁財天を開帳しています。題名に「弁財天開帳」の文字が含まれることからも、本図はこの開帳に当て込んで制作された作品と考えてよさそうです。

江戸時代には、当時の文化に根付いた様々な行事や遊びが庶民の生活に潤いを与えていました。馬頭広重美術館で２月16日（木）から開催される「江戸の大衆文化と行楽展」では、この世を楽しみ生きる江戸庶民の姿をご覧いただけることでしょう。

（学芸員　折井貴恵）

ミニギャラリー作品募集！

あなたの作品をここに出展してみませんか？
絵画、写真、絵手紙、手芸などの作品をお待ちしております。
申込み・問合せ‥企画財政課
☎0287−92−1114



梅賞公園のザゼンソウ

ミニギャラリー

那珂川に飛来したコハクチョウ

No.5　平成18年2月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL　http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

PRINTED WITH SOYINK™ この印刷物は、「環境にやさしく」をモットーに大豆油インキを使用しています。
R100 この印刷物は、古紙配合率100%再生紙を使用しています。